
地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

第 117 号 会 報 1987年11月20日

目 次

I 第82回総会ならびに講演会	1
II 長谷川記念杯贈呈	3
III 田中館賞審査報告	3
IV 会 長 挨拶	4
V 運営委員会報告	5
VI 学会規約・内規の改正	6
VII 新 入 会 員 等	8
VIII 本学会とAGUとの協力事業の具体案について	9
IX 田中館賞基金醸成金について	9
X 若手の会・夏の学校に関して	10
XI 講演会、学術研究集会等案内	10
XII 共同利用研究課題の公募	11
XIII 科学研究費補助金受領状況	11
XIV その他	12

I 第82回総会ならびに講演会

第82回総会及び講演会が9月29日～30日信州大学のお世話で同大学教養部で開催された。総会では住友議長を選出の後、百瀬大会委員長の挨拶があった。ついで木村会長より乗富一雄会員、加藤進会員に長谷川記念杯が贈呈された(本会報II項参照)。引続き、田中館賞の授与、審査報告がなされた。田中館賞は長野勇会員と岡田敏美会員の両名に授与された(本会報III項参照)。

続いて木村会長の挨拶（本項Ⅳ項参照）の後、運営委員会庶務報告、会誌発刊状況報告が行われた。ついで会場出席者92名、委任状出席者132名、合計224名が有効出席者と認められ、国内在住会員総数の3分の1の定足数を上回っており、大会成立を確認後議事に入った。

第1議案の「学会会則改正」については運営委員会提案が認められた。ただし内規の一部追加・変更については運営委員会に一任された（別項Ⅶ参照）。

第2議案の「学会参加費の新設」について、松本運営委員より提案理由が説明され、議論の後、昭和63年春期総会・講演会（第83回）より

正会員1,000円、学生会員500円

非会員 一般2,000円、 学生1,000円

を会場で徴収するという運営委員会原案が賛成多数で可決された。

第3議案は次期開催地、次々期開催地の提案であったが、次期については電波研の松浦会員から4月26日～28日の三日間電波研において開催して頂ける旨の報告があった。次々期については金沢大学はどうかとの提案があり、満保会員よりお引受け頂ける旨の発言があった。最後に大家寛評議員より大会主宰者に対する謝意が表明され、無事閉会となった。総会の式次第は以下の通りであった。

- | | |
|--------------|-----------|
| (1) 開会の辞 | (森会員) |
| (2) 総会議長の氏名 | (住友議長を選出) |
| (3) 大会委員長挨拶 | (百瀬大会委員長) |
| (4) 長谷川記念杯贈呈 | (木村会長) |
| (5) 田中館賞授与 | (木村会長) |
| (6) 田中館賞審査報告 | (木村会長) |
| (7) 会長挨拶 | (木村会長) |
| (8) 運営委員会報告 | |
| 庶務報告 | (松本運営委員) |
| JGG報告 | (福西運営委員) |
| (9) 議 事 | |
| 1. 学会規約改正 | (福西運営委員) |
| 2. 学会参加費の新設 | (松本運営委員) |
| 3. 次期・次々期開催地 | |
| 4. その他 | |
| (10) 謝 辞 | (大家評議員) |
| (11) 閉会の辞 | (住友議長) |

Ⅱ 長谷川記念杯贈呈

第16号 乗富一雄会員

乗富一雄会員は長年にわたって地球内部の電気伝導度の研究に多大の業績をあげられ、特に岩石の電気伝導度についての先駆的な仕事は、日本の電気伝導度異常の研究の発展に大きく貢献するものである。

また同会員は地球電磁気学的手法による断層活動度の研究においても、我々会員の指導者として献身的な努力を重ねられ、山崎断層、丹那断層、千屋断層などの活断層の電磁気的特性を明らかにされた。これは日本の内陸地震の予知実現に向かって大きく道を開いたものである。

第17号 加藤進会員

加藤進会員は長年にわたって電離圏、および中層大気力学の研究に多大の業績をあげてこられ、特に大気下層より中層大気を通してエネルギーや運動量を電離圏に輸送する上で大気波動、特に大気潮汐波の役割が重要であることをいち早く発見された。また中層大気研究のためMAP共同観測計画の推進とMUレーダ実現に尽力され、国際的にも大きな貢献を果たされた。また本学会では運営委員、評議員として活躍され、昭和54、5両年には会長を務められた。また文部省測地学審議会超高層部会長として本学会の発展のためにも大きな貢献をされている。

茲に本学会は乗富一雄、加藤進両会員に長谷川記念杯を贈呈し、地球電磁気・地球惑星圏科学の発展に対する両会員の顕著な功績を称えるとともに、その功労に対して感謝の意を表する次第である。

Ⅲ 田中館賞審査報告

第112号 長野 勇会員

【論文名】 波動論的電磁界解析法 (full wave 法) による V L F 波伝搬解析及びその応用研究

長野会員は電離層中の電波の左旋、右旋偏波毎の電磁界強度の高さ分布を理論的に計算する電磁界解析法(full wave法の1種)の計算機によるアルゴリズムを開発し、精度よく数値計算する手法を開発した。更にロケット等を用いて地上から発射された電波の電離層中の強度分布のみならず左旋、右旋両偏波に分離してその強度の高さ分布を測定する観測機器の開発を行った。この理論、実験両者の組合せにより、特に今迄測定の困難と考えられていた下部電離層中の電子密度と衝突周波数の高さ分布を推定することが可能となり、実際にこの目的の数回のロケット実験にも成功した。

また、磁気圏中を伝搬して電離層を突き抜け地上に降りてきた電波(信号或はV L F放射)の地上各点での強度、偏波を上記のfull wave法を用いて計算する方法を開発し、その様な電波を地上

で方向探知する場合の誤差の推定あるいは地上の多点で信号強度を同時測定した場合の地上の強度分布を理論的に説明することをも可能にした。

評議員会では以上の点が評価され授賞が決定した。

第 113 号 岡田敏美会員

【論文名】 波面法線ベクトルおよび偏波計測による V L F 波動の研究

岡田会員は地上、ロケット、衛星観測用の V L F 帯波動観測のための多数の優れた観測装置を開発した。まず V L F 波動の偏波、波面法線ベクトル、強度の観測装置を開発し、母子里、鹿児島、あるいはヨーロッパの地上観測網に用いて、ホイッスラーが電離層-大地間の導波管モード伝搬により受ける偏波の変化を実験的に調べ、逆に地上での偏波特性からホイッスラーの電離層出口の推定、磁気圏内の伝搬路の推定を行なった。また、ホイッスラー空電の発生数・分散の実時間自動測定装置を開発し、前記の偏波測定装置と組み合わせることにより、同じ分散をもつホイッスラーの電離層出口が、時間的にドリフトする例を見つけ、このデータから磁気圏中の静電場の推定を行なった。

さらに EXOS-D 衛星に搭載するため、V L F 帯から H F 帯までを兼用できる波面法線ベクトル観測用直交 3 軸ループアンテナシステムを開発し、感度を犠牲にせずかつ容積をあまり増さずにその広帯域化を実現した。

評議員会では以上の点が評価され、授賞が決定した。

Ⅳ 会 長 挨拶

会員の方々に本学会の近況をお知らせするために、去る 9 月 28 日～30 日信州大学にて開催された第 82 回総会ならびに講演会の総会の席上で行いました挨拶の概略を改めて記します。今回は百瀬寛一大会委員長はじめ、理学部、教養部所属の会員の皆様の大変なお骨折りのお蔭で、視聴覚設備の整った新しい講義室にて大会を開いて頂き大変有難うございました。

本学会は、名称変更にとまなう体質改善、A G U や他の学会との間の学会連合の問題など、多くの課題を抱えています。

まず、春の学会以来懸案となっておりました学会誌編集委員会に関する規約改正と内規につきましては、運営委員会・評議員会・J G G 編集委員会の方々の御協力を得て最終案ができ、この秋の総会で審議御決定いただくことになりました（総会議題参照）。

次に、学会の財政状態ですが、第 115 号会報にも述べられていますように会費値上げ後 4 年経過した現在、財政は極めて悪い状態になっております。学会名称変更にとまない、少しでも新しい企画を盛り込みたいと考えておりますが、財政の点から大きな制約を受ける現状であり、一刻も早くこの事態を解決することが望まれます。このためには会費の再値上げか、春秋の学会への参加

費、或は講演申込料の新設かの選択が迫られております。運営委員会としては、他の学会の例を調査した結果、大会参加費を新設する案を提案することになりました（総会議題参照）。

一方田中館賞基金についても会報 116 号で窮状を訴え、醸金をお願い致しましたが、幸い、多数の会員の皆様のご賛同をえ、基金が倍増いたしました。ご協力頂きました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

前回からご紹介しております本学会会員のおめでたいニュースであります。永田 武名誉会員には10月英国天文学会から地球電磁気学の永年のご研究に対して金メダルを受賞されました。また福島 直会員は去る5月、極磁気嵐の電流系の構造に関するご研究と、IAGAへのご貢献に対して紫綬褒章を受章され、加藤進会員は去る8月イスラエルのテルアビブで開催の URSI 総会において、アップルトン賞を受賞されました。会員の皆様と共に心からお慶び申し上げます。

一方、AGUから日本の地球物理の各学会に対して相互の協力関係を強化したい旨の申し入れがあり、さる8月12日にIUGGのバンクーバで初会合がありました。本学会からは小嶋稔、上田誠也、西田篤弘会員が出席され、日本側の受け皿としての学会連合の必要性も討議された由です（AGU Spilhaus 氏との話合いの項参照）。学会連合については、地震学会が既に検討委員会を作って議論を始められており、本学会とも合同で論議したいという申し入れが宇佐見会長から寄せられております。本学会としても運営委員会、評議委員会で議論頂き、前向きに検討すべく、本学会内の検討委員会を作ることになりました。

第14期日本学術会議会員の改選が来春から始まりますが、会員候補者届け出の〆切2月1日、推薦人の候補者届け出の〆切が2月20日となっていますので、本学会としても内規に従い、これらの候補者を会員全員の投票で決めなければなりません。その節はご協力をお願い致します。

最後に広報活動ですが、今期から山越運営委員に色々新しい試みをして頂いておりますが、特に秋季の学会において主要新聞社科学部への通知を戴き何社かから取材が行われたと聞いております。本学会のPRのためにも、今後このような広報活動を強化して行く予定であります。ご理解をお願い致します。

V 運営委員会報告

前回会報以後、第145、146回運営委員会がそれぞれ6月4日、9月27日に開催された。第82回総会・講演会の準備以外に、田中館賞基金の増額案、学会プログラム形式、AGUとの協力関係、科研費審査員候補者の選出、学会規約及び内規の改正、学会参加費の新設、学会連合への対応策、日本学術会議会員及び推薦人の推薦などについて議論がなされた。また本年発行予定の改訂版会員名簿についてもスケジュール等の検討がなされた。名簿については12月初旬には完成発送できるよう柳沢運営委員が努力中である。広報活動については山越担当運営委員の努力により第82回総会よ

り新聞等への広報活動を行うこととなった。

新入会員、退会員は別項Ⅶにあげるとおり認められた。

Ⅶ 学会規約・内規の改正

昭和62年9月29日の総会で議決された学会規約の改正点、および当日報告された内規の改正点は以下の通りであります。なお、改正後の規約および内規の全文は近日発行の名簿に刷り込まれます。

規約の改正点

第12条

(旧) 運営委員はそれぞれ会長の指示により次の会務を分担する。

庶務、会計、学会誌の発行、渉外、講演会、学会連合事務等。

(新) 運営委員は運営委員会を構成し、第21条に定める会務を行う。

第13条

(旧) 役員の任期は2年とする。但し会長は重任することは出来ない。(以下略)

(新) 役員の任期は2年とする。会長は重任することは出来ない。(以下不変)

第21条

(旧) 運営委員会は運営委員で構成し会務の処理を行う。

(新) 運営委員は次の会務を分担する。

庶務、会計、学会誌の刊行、渉外、講演会、学会連合事務等。

第7章 (旧) 機関誌編集委員会 (新) 学会誌編集委員会

第29条

(旧) 本会に機関誌の編集委員をおく。編集委員会は委員長および運営委員会の委嘱する会員で組織する。編集委員会は委員長が招集し、会誌編集に関する一切の事項を処理する。

(新) 本会に学会誌の編集委員会を置く。

第30条 (新) 委員会は、学会誌の編集に関する事項を審議し決定する。

第31条 (新) 委員会は、委員長、副委員長、及び委員をもって組織する。

第32条 (新) 委員長、副委員長、及び委員の選出は、内規に基づいて行う。

第33条 (新) 委員長は委員会を主宰する。副委員長は委員長を補佐する。

付則 2.(追加)

2. この規約は、昭和62年10月1日から施行する。

内規の改正点

第1条 (新) 本会の事務所は日本学会事務センターにおく。

第2条 (旧第1条) 一部改正

(旧) なお、3期連続運営委員経験者は次の留任を辞退することができ、……

(新) なお、3期連続運営委員経験者は次期の運営委員として選ばれても辞退することができ、……

第3条 (新) 会長に事故のある時は、運営委員会および評議員会で協議の上会長代理を決定する。

第4条 (新) 学会誌編集委員会の委員長、副委員長及び委員の選出。

1. 委員長は、会長が招集する委員長推薦委員会の議を経て選出し、会長がこれを委嘱する。
2. 同推薦委員会は会長の外6名の推薦委員をもって構成する。推薦委員の内3名は会長が指名するもの、他の3名は学会誌編集委員会の委員の中から委員長が指名するものとする。
3. 副委員長は、新委員長が会長と協議の上選出し、会長がこれを委嘱する。ただし、委員長、副委員長の一方は主として地球外部関係の会員から、他方は主として地球内部関係の会員から選出するものとする。
4. 委員は、委員長及び副委員長が会長と協議の上選出し、会長が委嘱する。ただし、委員の中には少なくとも1名の運営委員が含まれるものとする。
5. 委員長、副委員長及び委員の任期は原則として4年とし、4年毎に委員長及び副委員長を改選し、2年毎に委員の半数を改選する。ただし、再任を妨げないものとする。

第5条 (旧第4条)

第6条 (旧第5条)

第7条 (旧第6条)

なお、旧第2条及び旧第3条は削除する。

田中館賞内規 (第1条の下記の点のみ修正)

(旧) 田中館賞を本学会に設ける。田中館賞は本学会員の中で、地球電磁気学において顕著な学術業績をあげたものに授け、これを表彰する。

(新) (アンダーライン部分) 地球電磁気学および地球惑星圏科学において

長谷川記念杯内規 (第1条の下記の点のみ修正)

(旧) 日本地球電磁気学会長谷川記念杯は地球電磁気学界に顕著な功労のあった会員に贈りその業績を表彰する。

(新) (アンダーライン部分) 地球電磁気・地球惑星圏学会長谷川記念杯は地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に

Ⅶ 新 入 会 員 等

運営委員会で次の方々の入会が承認されました。

(* 印 学生会員)

竹 内 智 (山梨大学工学部)
石 本 美 智 (The Johns Hopkins University)
中 島 英 彰 * (東北大学理学部附属超高層物理学研究施設)
田 口 真 * (東北大学理学部附属超高層物理学研究施設)
中 川 朋 子 * (宇宙科学研究所)
大 谷 晋 一 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
角 間 和 男 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
河 野 英 昭 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
北 和 之 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
鈴 木 淑 子 * (日本大学大学院理工学研究科)
常 本 直 貴 * (東京大学大学院理学系研究科)
西 谷 望 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
樋 口 知 之 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
松 園 正 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
山 下 実 若 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
中 村 匡 * (東京大学理学部地球物理研究施設)
大 貫 弘 毅 * (東京工業大学大学院応用物理)

また、次の方々が退会されました。

早 川 幸 男 (名古屋大学理学部)
内 藤 悠 史 (京都大学工学部)
及 川 長 毅 (谷村学院花巻東高等学校)
緩 目 信 三 (名古屋大学空電研究所)
宮 下 清 子 (富士通㈱ソ部・応ソフト・第3ソフトウェア課)
橋 本 徹 夫 (弘前大学理学部地球科学科)

これにより会員数は以下の通りとなりました。

正 会 員 579名

(内: 学生会員 53名)

名 誉 会 員 6名

賛 助 会 員 11名

Ⅷ 本学会とAGUとの協力事業の具体案について

Dr. Spilhaus(AGU Executive director)が10月来日し、12日仙台で木村会長、松本紘運営委員が話し合いを行い、また14日に東京で日本の地球物理関係学会の代表との話し合いがあった(本学会からは小嶋稔、杉浦正久、行武毅会員が出席された)。その後Dr. Spilhaus は会長あてに手紙で本学会への具体的な提案を示している。以下には上記の国内での話し合いと会長宛の手紙の内容から先方の提案の概略を紹介する。

1. 本学会のニュースをEOSに掲載してもよい。
2. 本学会の会員にはAGUの出版物(JGR および AGU monograph など)をAGU会員の購入価格で入手できるようにする。ただし学会の会報にAGU出版物の情報を掲載する。
3. 1990年夏(7~8月頃)にAGUの学会(全分野)を日本で開催したい(米国で開催されるAGUの春、秋の学会の中間の時期に第三番目の会議として企画するもの)。規模は約1000名(内日本人700名程度)期間は1週間程度。財政的には総てAGUの責任で開催し、費用のほとんどは登録料で賄う計画であり、日本から特別の財政的な援助を必要としない。ただし、プログラムチェアマンや、ホテル、会場設備などの世話などでボランティアには協力をお願いしたい。また展示は行いたいので関連のある企業とコンタクトしたい。
4. 本学会の学術誌JGGの目次やアブストラクトをEOSに掲載することも考えられるが、本学会側がAGUの為にできることは何かを検討してほしい。
5. AGUが現在サービスを行っている電子メールネットワークkosmosを米国外にも広めたい。

Ⅸ 田中館賞基金醸金について

7月1日発行の会報116号にて田中館賞基金増額のための醸金のお願いを致しましたところ、10月28日現在で下記の方々のご賛同を得まして、醸金総額は587,000円に達しました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。なお、以後でもご賛同頂けます方は上記会報をご参照の上、学会事務センター宛お振込頂ければ幸いです。

秋本 俊一	石川 晴治	伊藤 晴明	行武 毅	岩井 章	上田 誠也
上野 裕幸	上山 弘	太田 柁次郎	大林 辰蔵	大家 寛	岡野 章一
奥沢 隆志	小口 高	恩藤 忠典	柿沼 隆清	加藤 進	河島 信樹
木下 肇	木村 磐根	国分 征	小嶋 稔	小嶋美都子	小玉 正弘
斉藤 尚生	新野 賢爾	杉浦 正久	高柳 和夫	田尾 一彦	田島 稔
坪川 家恒	堂面 春雄	土手 敏彦	中田 美明	中沢 清	長島 一男
並川 富一	新妻 信明	西田 篤弘	乗富 一雄	羽倉 幸雄	平尾 邦雄
広野 求和	福島 直	福西 浩	藤井善次郎	藤田 尚美	藤本 和彦

本蔵 義守 松浦 延夫 百瀬 寛一 安川 克己 前田 坦 松本 紘
柳原 一夫 横山 泉 米沢 利之 若井 登 (敬称略:アイウエオ順)

X 若手の会・夏の学校に関して

今日の日本の宇宙開発はスペースステーション時代を迎え、また環境問題においても大気科学の重要性は倍加し、この学会の社会的役割は、いよいよ大きくなっております。計算機の進歩・観測手段の多様化に伴い、研究内容も質・量ともに向上していくことが期待されます。このような状況を考え、現在大学院生である若手グループが、将来の研究に関して自由に討論を交わす場が必要であると思われまふ。残念ながら、現在のところ長期構想に関するシンポジウム等に来まるメンバーは固定化され、若手研究者の発言の場が十分なものであるとは言えません。我々は勉強会中心であった従来からの夏の学校を、むしろ若手研究者が自由に意見をたたかわす啓蒙の場に変革していきたいと考えております。

今年は8月4、5、6の2泊3日、静岡県伊豆高原において上記のような趣旨を生かした夏の学校を開校いたしました。全国から34名の方々が集まり、講師として、京大より松本紘、深尾昌一郎、大村善治の諸先生、宇宙研より柳沢正久先生、東大より山本達人先生をお招きし、宇宙開発の将来像と宇宙基地時代に科学者のとるべき態度、新しい観測・実験手法の開発等について活発な意見が交換されました。現在研究の第一線に立たれている先生方から、ご自身の研究の歴史、今後の方針・計画についてお話を伺うことができたことは若手の者にとって大変励みとなりました。来年は、より多くの先生方、若手の皆さんをお招きして、若手の会・夏の学校を開催し、互いに意見を述べ、討議を交わし合う場にしていきたいと思ひます。今後の会員の皆様の御意見・御指導を切にお願いいたします。

問い合わせ先 東京大学理学部附属地球物理研究施設

若手の会事務局 代表 久世 暁彦

TEL. 03-812-2111 (内線) 4596

XI 講演会、学術研究集会等

下記のを学会が協賛しております。

1. 第31回宇宙科学技術連合講演会

開催日: 昭和62年10月28~30日

会場: 北海道大学学術交流会館 (札幌市北8条西5丁目)

連絡先: 日本航空宇宙学会

TEL. 03-501-0463

2. 第2回「大学と科学」公開シンポジウム

『宇宙科学の最先端』

開催日：昭和62年12月20～23日

会場：ニッショーホール（東京都港区虎ノ門2-9-16）

連絡先：〒107 東京都港区南青山2-4-6 クレセントプラザ1階

株式会社アイシーオー（ICO）内

『宇宙科学の最先端』係 TEL 03-470-3766（代）

3. 第12回レーザーセンシングシンポジウム

開催日：昭和63年5月27～28日

場所：桃花苑（〒700 岡山市駅前町2-3-31）

連絡先：郵政省電波研究所 板部 敏和 TEL 0423-21-1211

XII 共同利用研究課題の公募

京都大学超高層電波研究センターから昭和63年度前期（63年4月～63年9月）共同利用研究の公募要項が発表されています。

共同利用研究の中心的設備となるMUレーダーは中層・超高層大気観測用VHF帯大型ドップラレーダーです。また、他に共同利用に供される設備としてはアイオノゾンデ、二周波共用型マイクロ波レーダー、ラジオゾンデ等があります。

【応募資格】

申請者は、教授、助教授、講師及び助手（他省庁等については相当職の研究者）に限ります。利用を希望される方は、下記に申請書類等が用意されていますので御問い合わせ下さい。なお、今回の締切りは昭和63年2月10日ですので御留意下さい。

〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター事務室

TEL 0774-32-3111（内線 3340）

XIII 科学研究費補助金受領状況

本学会に関連して昭和62年度に下記の課題で受領している旨研究代表者より連絡がありました。

総合研究（A） “中層・超高層大気の力学に関する総合的研究”

研究代表者：京大超高層 加藤 進

総合研究（A） “汎世界的地上観測網による磁気圏素過程の研究”

研究代表者：九大理 北村 泰一

XIV そ の 他

以前の会報でもお願い致しましたが、本年度科学研究費受領状況を会報で紹介したいと思います。総合(A), (B)並びに一般(A), (B)の代表者は深尾運営委員迄お知らせ下さい。また最近各大学で審査をパスした博士学位論文の論文名, 氏名, 大学名を深尾運営委員まで御連絡下さい。

学会役員の主な連絡先

会 長 〒606 京都市左京区吉田本町
木 村 馨 根 京都大学工学部電気工学第二教室
Tel 075-751-2111 (内線) 5348
Tel & FAX 075-751-8201 直通

運営委員会
総 務 〒611 宇治市五ヶ庄
松 本 紘 京都大学超高層電波研究センター
Tel 0774-32-3111 (内線) 3332
Tel & FAX 0774-33-2532 直通

同 庶 務
深 尾 昌一郎 Tel 0774-32-3111 (内線) 3352
FAX 0774-31-8463 事務室

発 行 地球電磁気・地球惑星圏学会
〒113 東京都文京区弥生 2-4-16
学会センタービル
(財)日本学会事務センター内
電 話 (03) 817-5801
ファックス (03) 817-5800